

# 平成 26 年度新人戦大会・大会要項

1. 本大会は、トーナメント方式とする。
2. 試合は 7 回戦とし、1 時間 30 分を過ぎたら新しいイニングに入らない。  
ただし、決勝戦は 7 回戦で時間無制限とする。(コールドゲームは適用)
3. 7 回終了、又は時間切れ同点の場合は、サドン方式を採用する。  
サドン方式は、無死満塁のサドン方式(最終メンバーの継続打順)により 1 イニング行う。なお、同点の場合は再度サドン方式を行う。2 回行っても勝敗が決定しない場合は、最終メンバー 9 人の抽選により決定する。
4. コールドゲームを採用する。  
本大会は、3 回 15 点・4 回 10 点・5 回以降 7 点差でコールドゲームとする。なお、強風・降雨・日没等の場合は 4 回にて試合成立とする。(後攻チームがリードしている場合は、4 回表終了にて成立する)  
なお、4 回以前でも規定の時間に達したならば、試合は成立する。
5. ベンチ入りは、代表者、保護者代表、監督、コーチ 2 名、スコアラー 1 名、選手は 20 名(5 年生以下)とする。また、ベンチは抽選番号の若い番号を 1 塁側とし、先行・後攻はジャンケンにて決定する。
6. 投手の投球制限については、1 日 7 イニングとする。ただし、特別延長戦に限り 2 イニングまで認める。(公益財団法人東京都軟式野球連盟:「少年部・学童部の投球制限」に関する解釈に準ずる)
7. 試合前の、守備練習を後攻のチームより 5 分間交代で行う。(チームの選択権あり)
8. チーム応援は、所定の場所で行う。
9. 抗議権は、当該選手及び監督とする。
10. 捕手を含む内野手が 1 試合に投手のところへ行ける回数を 3 度以内とする。なお、特別延長戦となった場合は、2 イニングに 1 度行くことができる。
11. 監督に限り、グラウンドに出て指示をすることができる。なお、小走りでスピーディーに選手のもとに行き、帰ること。
12. タイムの制限・・・監督が、1 試合に投手のところに行ける回数は、7 イニングに於いて 3 度以内。特別延長戦は 2 イニングに 1 度行くことができる。攻撃側のタイムは 1 試合に 3 度以内とする。なお、特別延長戦になった場合は、2 イニングに 1 度とする。
13. 選手登録
  - ◎ 登録は、選手 20 名以内とし背番号は 27 番以内とする。監督は 30 番、主将は 10 番とし、コーチは 29・28 番を付けること。
  - ◎ 選手及び監督コーチは、ユニホーム・帽子・スパイク・ストッキングは統一したものを着用すること。
  - ◎ 試合開始 40 分前までに集合し、開始 30 分前までに大会本部にメンバー表を提出すること。  
\*登録後は、グラウンド内には、30・29・28 番以外は入れません。
  - ◎ 選手全員スポーツ保険に加入していること。
14. 参加チームは、単独チームとし、一切の補強を認めない。
15. ヘルメットは、必ず 8 個以上用意すること。また、捕手用用具(JSBB)は必ず着用すること。

16. 金属バットは、全軟連公認(JSBB)のものに限る。
17. 試合中の選手交代は迅速に行うこと。また、ランナーコーチは選手とする。
18. ランナーコーチは、ベンチからヘルメットを着用してコーチャースボックスへ行くこと。  
また、ボールボーイもヘルメットを着用すること。(審判へのボール渡しは着帽のままでよい)
19. 投手が投球位置にいる・いないに関係なく、打者は速やかにバッターボックスに入ること。なお、サインはバッターボックス内で見ること。また、ネクストバッターサークルでは、起立の姿勢をとり素振りはしないこととする。
20. 投球練習の際、キャッチャーは必ずマスク・捕手用用具を着用すること。また、2回以降のキャッチャーの声かけは、定位置で行うこと。(シートノックがある場合は、マスクの着用は自由とする)
21. 上記に記載されていない方法と規則は、全軟連規則を準用し、特別ルールは本連盟にて決定実行する。
22. 特記：ベンチ等での声援については、子供たちのお手本となるようにすること。  
グラウンド周辺では禁煙の徹底と自転車走行への安全の確保、並びに、ごみ等は必ず持ち帰ること。